

# 年少児保育案

はな組 男児9名 女児10名 計19名  
保育者 内田 真紀 坂元 久美子

## 1 幼児の実態

子どもたちは、幼稚園での生活を楽しみに登園するようになり、友だちと一緒に自分の好きな遊びを楽しんでいる。遊ぶ中で、「貸して」「一緒に遊ぼう」「いやだ」「あとで」「使ってから貸してあげるね」など、自分の思いを友だちや保育者に伝える姿が見られる。気持ちがぶつかり合う場面もあるが、自分の気持ちを泣きながら伝えたり、保育者に気持ちを代弁してもらったりして相手に思いを伝えている。また、保育者から友だちの気持ちを聞いて相手の気持ちを知る経験も積み重ね、少しずつ相手の話を聞くこともできるようになってきた。生活に必要なことや身の回りの始末など、自分から進んでしようとする姿も見られるようになってきた。

園庭では、友だちと一緒にかくれんぼやあぶくたった、おにごっこなど寒い日でも体を動かして遊ぶことを楽しんでいる。また、砂場で砂と水を混ぜてごちそうをつくったり、トンネルを並べて電車を走らせたりして遊んでいる。ぶらんこや鉄棒など、様々な固定遊具や長縄飛びに挑戦する姿も見られる。

室内では、空き箱や牛乳パックなどを組み合わせて自分のつくりたいものをつくって楽しんでいる。保育室の様々な道具や用具を安全に気を付けて使えるようになり、ガムテープを切れない友だちの代わりに切ってあげる優しい姿も見られる。また、折り紙の本を見ながら保育者と一緒に折って楽しんでいる。ままごと遊びでは、必要な道具をそろえたり、エプロンを身に着けたりして、自分のなりたい役になりきって楽しんでいる。

このように子どもたちは、友だちや保育者とのかかわりを深めながら、幼稚園内の様々なものや自然に興味をもってかかわり、自分のしたい遊びを楽しんでいる。

## 2 遊びの価値とねらい

子どもたちは、友だちや保育者と一緒に遊ぶ中で、楽しい気持ちや自分が発見したことなどを伝え、相手に分かってもらえた喜びを感じたり、うまく伝わらずに涙を流したり、けんかになったりする経験を積み重ねてきている。

そこで、友だちと一緒に楽しめる簡単なルールのある遊びや、場や道具を共有しながら遊ぶ姿を大切にしたい。

あぶくたったやかくれんぼなどは友だちと一緒に簡単なルールを守って遊ぶ楽しさを味わうことができる。遊びながら、誰がおにになるか話をして決めたり、役割を交代しながら遊んだりすることができる。友だちや保育者と言葉を交わしながら遊ぶことで、その楽しさを味わうことができるようにしたい。また、体を動かすことで、体が暖まってくる心地よさを感じたり、日なたと日陰の違い、友だちと手をつなぐことで友だちの手の温もりを感じたりすることができるのではないだろうか。

ごっこ遊びは、友だちと話をしながら、やりたい役を決めたり必要な道具を準備したりして遊びを楽しむことができる。テレビのヒーローや家族など自分がどの役をしたいか話し、友だちの話を聞くことでイメージを共有し、遊びをさらに楽しむことができる。友だちに自分の思いを伝え、相手の思いを聞きながら遊びを盛り上げていくことができる遊びとして大切にしたい。

こうした遊びは、友だちとかかわりながら遊ぶことを楽しみ、自分の思いを話したり、友だちの話を聞いたりして、自分の思いが相手に分かってもらえた喜びを感じる姿へとつながっていくと考える。

### 3 この期の保育について

#### (1) ねらい

- 友だちとかかわりながら遊ぶことを楽しむ。
- 身近な冬の自然に触れて楽しく遊ぶ。

#### (2) 内容

- 好きな友だちを誘って遊ぶ。
- 自分の思いを自分なりの言葉で友だちや保育者に伝えたり、相手の話を聞こうとしたりする。
- 寒さに負けず戸外で元気に遊ぶ。
- 霜柱や氷など冬の自然に触れる。
- 身の回りのことや生活に必要なことを自分でしようとする気持ちをもって取り組む。
- 冬の健康な生活の仕方を知る。

### 4 本日の保育について

#### (1) ねらい

- 一緒に遊びたい友だちを誘って遊ぶ。
- 身の回りのことや生活に必要なことを自分でしようとする。

#### (2) 内容

- かくれんぼやあぶくなくなった、ごっこ遊びなど友だちを誘って遊ぶ。
- 一緒に遊びながら、自分の思いを自分なりの言葉で友だちや保育者に伝えようとする。
- 園庭で遊びながら、日なたの暖かさや吐く息の白さなど、冬ならではの自然に触れる。
- 自分から進んで片付けや手洗い・うがい、衣服の着脱をしようとする。

#### (3) 保育に当たって

##### ア 人とのかかわり

- 一緒に遊びたい友だちを誘って遊ぶ姿を見守り、保育者も仲間となって遊びたい。遊ぶ中で、自分の思いを友だちに伝えようとする姿を見守り、相手に伝わったうれしさを感じることができるような言葉掛けをしたい。
- 自分の思いを通そうとして気持ちがぶつかる場面では、じっくりと両者の話を聞き、自分なりの言葉で相手に思いを伝えようとする姿を見守りたい。そして、友だちの話を聞くことで、相手の思いにも気付くことができるように言葉を掛けていく。
- 衣服の調節や手洗い・うがいなど、冬の健康な生活の仕方を知らせ、自分から進んでしようとする姿を見守り、必要に応じて言葉を掛けたり手伝ったりする。

##### イ ものとのかかわり

- 遊びに必要なものをつくったり、使ったりできるように数・種類を揃えて準備しておき、遊びが充実するようにしたい。
- 園庭の様々な固定遊具に積極的にかかわり、自分からやってみようとする姿を見守り、保育者も一緒に楽しみたい。必要に応じて手伝ったり、励ます言葉掛けをしたりして「できた」という満足感を味わえるようにする。

##### ウ 自然とのかかわり

- 吐く息の白さや風や水の冷たさなど、冬ならではの自然に触れる機会を大切にし、その不思議さについても話題にしていきたい。寒さの中でも、日なたの暖かさや体を動かすと体が暖まってくること、友だちの手の温もりなどを一緒に感じながら、気付くことができるような言葉掛けをする。
- 二十日大根やクロッカスの様子を見たり水を掛けたりする中で成長に気付く姿を見守り、共に喜ぶようにする。